

令和5年度における学力向上に向けた取組について

～全国学力・学習状況調査、とっとり学力・学習状況調査及び英検 I B Aの結果と対応について～

令和6年2月16日

小中学校課

全国学力・学習状況調査等で明らかになった学力課題の解決に向けて、全国学力・学習状況調査のほか、児童生徒の学力の伸びを測るとっとり学力・学習状況調査や英検 I B A 等を活用し、データに基づいた分析を行い、一人一人を丁寧に見取り、確実に伸ばす教育を推進するとともに、各調査における結果から当県の課題を明らかにし、学校・家庭・教育委員会が一体となって児童生徒の学力及び学習意欲の向上に向けて取り組むために、戦略的、短期・中長期的な視点から抜本的な対策を検討する「学力向上推進プロジェクトチーム」を開催し、学力向上対策の推進を図っている。

1 全国学力・学習状況調査の結果について（実施日：令和5年4月18日）

(1) 調査概要

- ①参加者 小・義務教育学校第6学年児童…約4,800人
中学校第3学年・義務教育学校第9学年生徒…約4,400人
- ②調査項目 国語、算数・数学、英語、児童生徒質問紙（アンケート）

(2) 結果の概要

【教科調査】全国平均正答率と比較すると、小学校国語、中学校国語、中学校数学では差が見られないが、小学校算数は下回り、中学校英語は大きく下回った。授業改善のポイントとして取り組んできた「思考・判断・表現」を問う問題で小学校の正答率の改善が見られた。さらに小学校・中学校国語において、記述問題の正答率の改善が見られた。

【質問紙調査】自己肯定感や地域への参画意識は高まってきているが、自分の考えを工夫して発表する力に課題がある。

<各教科>

教科調査平均正答率（%）

	国語		算数・数学		英語	
	本県（公立）	全国（公立）	本県（公立）	全国（公立）	本県（公立）	全国（公立）
小学校6年	67 →	67.2	61 ↓	62.5		
中学校3年	69 →	69.8	50 →	51.0	42 ↓	45.6

※文部科学省は、細かい桁における微小な差異は実質的な違いを示すものではないため、平成29年度より小数点以下は四捨五入し整数値で公表している。よって、本県としては±1%以内は「全国平均と差はみられない」として取り扱っている。

※中学校英語調査は、平成31年度実施から4年ぶりに実施。

「思考・判断・表現」を問う問題の全国平均との差

学校・教科	令和3年度	令和4年度	令和5年度
小学校国語	-4.2	-2.0	+0.1
小学校算数	-2.1	-1.6	-1.4

記述問題の全国平均との差

学校・教科	令和3年度	令和4年度	令和5年度
小学校国語	-2.0	-0.5	+1.7
中学校国語	-2.4	-1.6	-1.0

<質問紙> ※（ ）内は本県の令和4年度との比較[%]

○「自分には、よいところがあると思いますか」、「今住んでいる地域の行事に参加していますか」などの質問に対し、肯定的な回答をした児童生徒が全国平均を上回り、昨年度より増加した。

よいところがある：小学校6年 84.3 (+5.3) ※全国比+0.8 中学校3年 80.5 (+2.4) ※全国比+0.5

地域の行事に参加：小学校6年 73.3 (+5.4) ※全国比+15.5 中学校3年 46.6 (+1.4) ※全国比+8.6

○「将来の夢や目標を持っていますか」の質問に対し、肯定的な回答をした児童が昨年度より増加した。

将来の夢や目標：小学校6年 81.2 (+1.6) ※全国比-0.3 中学校3年 66.3 (-0.6) ※全国比±0.0

▲「資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」の肯定的な回答は児童生徒ともに課題がある。

工夫して発表：小学校6年 57.8 (-1.6) ※全国比-5.9 中学校3年 58.1 (+0.2) ※全国比-4.0

【成果と課題】

○近年、全国学力・学習状況調査で鳥取県の課題として明らかになった「思考力・判断力・表現力等」について、それらの力を予測困難な時代を生きる子どもたちに、「今、求められる資質・能力」と位置付け、その課題解決のため、授業改善に向けた取組をはじめ、様々な事業を行ってきたことで、「思考・判断・表現」を問う問題の正答率に成果が表れてきている。

▲中学校英語については、全国平均正答率と大きく開きがある。学校訪問による授業改善等の指導は行ってきたが、それだけでは十分ではなく、生徒の学力向上には至っていない。

【今後の取組】

「今求められる資質・能力」を育成するための授業改善を推進するとともに、ねらいを明確にした授業づくりや若手教員等の指導力向上に係る支援などに取り組む。また、英語教育の課題を把握し、英検 I B A 調査結果をもとに学校訪問を行い、学校への支援を充実するとともに、ALT等の有効な活用方法についても助言するなどして英語教育を推進する。

2 とっとり学力・学習状況調査の結果について（実施日：令和5年5月8日から19日までの間）

（1）調査の概要

①参加者（参加市町村：14市町村）

小・義務教育学校第4・5・6学年児童…12,758人

中学校第1・2・3学年・義務教育学校第7・8・9学年生徒…11,626人

②調査項目 国語、算数・数学、質問紙（アンケート）

（2）結果の概要

本年度より実施校のほとんどが3年目になったことから、一定程度県としての学力レベルの伸びや学力が伸びた児童生徒の割合に加え、学力の伸びの変化が数値として測定できるようになった。

○国語、算数・数学とも各学年で順調に学力レベルを伸ばしている。

○非認知能力・学習方略の数値において、概ね昨年度と同程度であった。

○主体的・対話的で深い学びの実現の数値が昨年度と比べて低かった。

【小学校】

○国語・算数ともに、学力レベルを伸ばしており、国語は学力が伸びた児童の割合が高く、伸びも大きい。

○特に、前年に学力に課題があると想定されていた5年生の伸びが顕著である。

【中学校】

○国語、数学ともに、概ね順調に学力レベルを伸ばしている。

○3年生では、数学で学力を伸ばした生徒の割合が大きい。

【状況】

1) - ① 現学年別学力レベルの推移（学力レベルは、1Cから12Aまでの36段階）

※（ ）内は、前年度からの学力レベルの伸び

学年	国語				算数・数学			
	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
現小4				6-C				5-C
現小5	-	-	5-A	7-C (+4)	-	-	5-C	6-C (+3)
現小6	-	6-A	6-A (0)	7-B (+2)	-	5-B	6-C (+2)	6-B (+1)
現中1	6-C	6-A (+2)	7-B (+2)	7-A (+1)	5-C	6-C (+3)	6-A (+2)	7-C (+1)
現中2	7-C	7-B (+1)	7-A (+1)	8-B (+2)	5-A	7-C (+4)	7-A (+2)	8-C (+1)
現中3	7-B	8-C (+2)	8-B (+1)	8-A (+1)	7-C	7-B (+1)	8-C (+2)	8-A (+2)

1) - ② 各学年の年度別学力レベル

学年	国語				算数・数学			
	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
小4	6-C	6-A	5-A	6-C	5-C	5-B	5-C	5-C
小5	7-C	6-A	6-A	7-C	5-A	6-C	6-C	6-C
小6	7-B	7-B	7-B	7-B	7-C	7-C	6-A	6-B
中1		8-C	7-A	7-A		7-B	7-A	7-C
中2			8-B	8-B			8-C	8-C
中3				8-A				8-A

1) - ③ 各学年の学力が伸びた児童生徒の割合（％）

※（ ）内の数値は、昨年度の児童生徒の調査結果

	国語	算数・数学
小5	87.7 (54.4) ↑	70.8 (72.7) ↓
小6	78.9 (76.4) ↑	64.4 (75.2) ↓
中1	65.4 (61.9) ↑	60.2 (68.3) ↓
中2	66.8 (61.9) ↑	61.8 (68.5) ↓
中3	55.8 (-)	68.1 (-)

2) 児童生徒質問紙調査（5が最高値）

学年	主体的・対話的で深い学びの実施	学習方略				
		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略
小 4	3.7 (3.9)	3.4 (3.5)	3.5 (3.5)	3.4 (3.5)	3.7 (3.7)	3.9 (3.9)
小 5	3.7 (4.0)	3.4 (3.4)	3.5 (3.5)	3.4 (3.4)	3.7 (3.7)	3.9 (3.9)
小 6	3.7 (3.9)	3.4 (3.4)	3.5 (3.5)	3.3 (3.3)	3.8 (3.7)	3.9 (3.9)
中 1	3.7 (4.0)	3.5 (3.5)	3.5 (3.6)	3.5 (3.5)	3.8 (3.8)	3.9 (3.9)
中 2	3.7 (3.8)	3.4 (3.3)	3.5 (3.5)	3.5 (3.4)	3.7 (3.6)	3.7 (3.7)
中 3	3.7	3.5	3.5	3.5	3.7	3.6

※中学3年生は本年度から実施しているため、昨年度の数値はない

※（ ）内の数値は、昨年度の児童生徒の調査結果

学年	非認知能力				
	自己効力感	やりぬく力	向社会性	勤勉性	自制心
小 4	3.6	—	—	—	3.7
小 5	3.4 (3.4)	3.1 (3.1)	—	—	—
小 6	3.4 (3.3)	—	2.9 (3.1)	—	—
中 1	3.3 (3.2)	—	—	3.3(3.7)	—
中 2	3.1 (3.1)	—	—	—	3.7 (3.8)
中 3	3.1 (2.9)	—	2.8 (3.0)	—	—

※（ ）内の数値は、同一集団の児童生徒の昨年度の調査結果

◆主な学習方略・非認知能力について

- ・柔軟的方略：自分の状況に合わせて学習方略を柔軟に変更していく活動
- ・プランニング方略：計画的に学習に取り組む活動
- ・作業方略：ノートに書く、声を出すといった「作業」を中心に学習を進める活動
- ・認知的方略：より自分の理解度を深めるような学習活動
- ・努力調整方略：「苦手」などの感情をコントロールして学習への意欲を高める活動
- ・自己効力感：自分はそれが実行できるという期待や自信
- ・向社会性：他人や他の人々の集団を助けようとしたり、人々のためになることをしようとしたりする力
- ・勤勉性：やるべきことをきちんとやることができる力
- ・自制心：自分の意思で感情や欲望をコントロールすることができる力
- ・やり抜く力：自分の目標に向かって粘り強く情報をもって成し遂げられる力

【成果と課題】

○ 小学5年生では、学力が伸びた児童の割合が高く、学力の伸びも大きいことから、小学4年時の授業改善が進み、学習効果が高まったと考えられる。

▲ 主体的・対話的で深い学びについて、昨年度と比較するとすべての学年において数値は下がっている。主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を図る取組をさらに進める必要がある。

▲ 自己効力感は、昨年度よりも上がっているものの、学年が上がるにつれて低下する傾向が見られる。発達段階とも捉えられるが、引き続き自己効力感を高めていく取組を進める必要がある。

【今後の取組】

今後、全国学力・学習状況調査とも関連付けながら分析を進め、良い実践を広く周知するとともに、調査結果の分析に係る各学校の負担を軽減する「分析シート」の効果的な活用を促すこと等により、とっとり学力・学習状況調査を活用した効果的な授業改善や学校経営等を推進する。

3 英語力向上事業(4技能型英検 I B A)の結果について(実施日:令和5年6月12日から7月28日までの間)

(1) 調査の概要

- ①参加者 中学校第3学年・義務教育学校第9学年生徒
3,956人(リーディング・リスニング)・3,958人(ライティング・スピーキング)
- ②調査項目 「リーディング・リスニング(2技能型)」「ライティング・スピーキング(2技能型)」

(2) 結果の概要

○今年度、初めて中学校3年生(義務教育学校9年生)を対象として実施した4技能型英検 I B A(※1)において、リーディング・リスニングのテストでは47%の生徒が、ライティング・スピーキングのテストでは55%の生徒が、英検3級(※2)レベルに達しているという結果が得られた。また、リスニングの平均CSEスコア(※3)は英検3級レベルを上回り、その他の技能の平均CSEスコアも英検3級に近いことから、中学校3年生前半の段階で、生徒全体の英語力が順調に育成されている。

※1 4技能型英検 I B A (Institution Based Assessment): 日本英語検定協会(以下「英検協会」)が実施する、英語力を、読むこと(リーディング)、聞くこと(リスニング)、書くこと(ライティング)、話すこと(スピーキング)の4技能で測ることができるテスト。結果は、技能別のスコアや英検級レベル等で示されるが、実際の英検資格の取得とはならない。

※2 英検3級:国が示す中学卒業段階での英語力の指標(CEFR A1)の例として示される外部試験資格の1つ。国の第4期教育振興基本計画(令和5年6月16日閣議決定)では、生徒の英語力について、令和9年度までに、中学校卒業段階で、CEFR A1レベル相当(英検3級相当)以上を達成した生徒の割合の目標値を6割以上とし、加えて全ての都道府県・政令指定都市において、同指標を達成した生徒の割合を5割以上にすることを目指すことが示されている。

※3 CSEスコア(Common Scale for English):英検協会によって作成された、英語力を示す尺度

【技能別の結果等】

技能	平均CSEスコア(※)	英検3級レベル以上の割合	出題分野別傾向等
リーディング	368.4	47%	語句の空所補充の正答率が高い。長文読解(まとまった英文を読んで必要な情報を理解すること)に課題がある。
リスニング	355.2		対話を聞いて内容を理解する問題の正答率が高い。短文を聞いて内容を理解することに課題がある。
ライティング	345.2	55%	身近なことに関する質問に対して自分の考え等を書く問題で、内容の適切さについての全体での正答率が高い。正しい文法で書くことに課題がある。
スピーキング	349.4		身近なことに関する質問に対して即興で答える問題の正答率が高い。初見の英文を音読することに課題がある。

※< CSEスコア(Common Scale for English)について>

- ・技能(リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング)別に表記することで、技能ごとの英語力を把握することが可能。また、継続的に活用することで、技能ごとの英語力の伸長度を把握することが可能。

(参考) CSEスコアによる、英検合格レベル判定基準

	準1級	2級	準2級	3級	4級	5級
4技能総合	2304	1980	1728	1456		
リーディング	598	511	448	379	330	236
リスニング	603	503	430	349	292	183
ライティング	591	506	444	375		
スピーキング	512	460	406	353		

【成果と課題】

- 各学校で、英語教師等が日々指導や授業の改善に取り組んでいることが、本事業で、約5割の生徒に英検3級程度の力が身に付いているという結果につながったと考えられる。
- 対話を聞いて理解する問題や質問に対して即興で答える問題の正答率が高かったことから、日々の授業で、教師と生徒や生徒同士の英語によるやり取りが行われる等、授業改善が進みつつあると考えられる。
- ▲必要な情報や概要、要点を把握する英語の読み方について、目的、場面、状況などに応じて適切な内容を正確な英語で表現することについて、指導を充実させる必要がある。

【今後の取組】

4技能型英検 I B Aに引き続き取り組み、定点と経年(伸び)の両面から生徒の英語力を把握することで各学校での指導と評価の充実を図るとともに、「言語活動を通じた指導」を柱とした授業改善を推進するため、県内全ての中学校訪問や、各種研修会等を実施する。また、ネイティブスピーカーを講師とした体験事業を開催したり、授業でオンライン英会話を実施する自治体に補助を行ったりするなど、生徒が英語を活用する場を学校内外で創出する。

4 令和6年度取組について

【学びの改革推進総合プロジェクト】

全国学力・学習状況調査、とっとり学力・学習状況調査、英語教育実施状況調査及び英検IBA等で明らかになった学力等の課題解決に向けて、学力の伸びや非認知能力との関連性などデータに基づいた分析を行い、個々の児童生徒や学校の状況に応じた授業改善や児童生徒の英語によるコミュニケーション能力を向上させるため、市町村教育委員会と一体となった学力向上等の施策を進め、鳥取県ならではの一人一人を丁寧に見取り、確実に伸ばす教育を推進する。

(1) 学力向上検討会議

外部有識者等と連携し、学力向上に係る事業評価、先進県の取組の本県教育への落とし込み、推進プランの策定、目標設定及び目標管理等を行い、子どもを伸ばす学校改革（指導力向上等）を推進する。

(2) 教育データ活用事業

①EBPMによる効果検証事業

市町村教育委員会と連携し、とっとり学調のデータを根拠とした教育施策の立案に向けたモデルを確立する。兵庫教育大学及び慶応義塾大学大学院准教授と共同し、様々な教育データ（とっとり学調、体力調査等）を複合的に分析することで、児童生徒の状況を的確に把握し、学習・生活指導モデルを作成する。また、児童生徒の学力を伸ばしている教員の行動分析を通じて、人材育成モデルを構築する。

②とっとり学力・学習状況調査

県内全公立小学4～6年生・中学生1～3年生の児童生徒の学力や学習に関する事項等を把握することで、児童生徒一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進する。

③外部試験（英検IBA）活用事業

県内全公立中学生と小学6年生（希望者）に外部試験（中：英検IBA・小：英検ESG）を実施し、児童生徒の英語4技能の力を総合的に向上させる。

④とっとり学力・学習状況調査活用協力校事業

とっとり学調のデータ活用を重点的に支援する学校を指定し、好事例を創出・周知する。

⑤学校マネジメント研修会

教育データを学校経営に生かす方法等について理解し、学校経営への活用資する。

(3) 指導力等向上事業

①英語に係る授業改善推進のための指導力向上研修

英語4技能統合型の授業改善を推進していくため、授業づくりや授業改善に関する研修を実施する。

・英語教育推進フォーラム

・小学校英語専科等指導力向上研修会

・小中接続に係る英語授業づくり研修会

・グローバルティーチャーに学ぶ研修会

・英語教育推進に先導的に取り組んでいる自治体と協働して、ALT等を活用した授業づくりや学校取組支援及び好事例の周知

②子どもが伸びる授業づくりプロジェクト

重点校を指定し授業づくりの拠点として重点的に支援を行い、県内の学校の授業改善の推進を図る。

・元学力調査官を招聘した授業研究会を全県を対象に年2回開催。

・重点校は2年間の指定（国語は東・中・西各2校、算数は各1校）。

③教科別指導力向上

授業づくりや定期考査の改善を推進する。

・小学校：国語、算数

・中学校：国語、数学、英語

(4) 個別最適化に係る教育DX推進事業

①つまずきに合わせたオンライン復習アプリ実証研究

とっとり学調の結果から個のつまずきをAIが分析し、児童生徒ごとに個別化したドリルを実施する。

②オンラインスピーキング補助事業

県内公立小中学校の小学校5年生以上の児童生徒を対象に、オンライン英会話レッスン（教科書準拠のプログラム）を活用する市町村を支援する。（補助率1/2、補助上限額1,500円/人）

③eラーニング教材活用による学力向上推進

eラーニング教材を活用して学力向上を図る市町村を支援する。

④小学生のための1DAYイングリッシュ

【小学3～6年生対象】

小学生が外国人講師やALT等のネイティブスピーカーと英語でコミュニケーションを図りながら、様々な体験活動を通して英語に親しむ1日イベントを開催する。

(5) ALT等を活用した英語によるコミュニケーション能力向上事業

ALT等を活用し、授業内外で日常的に英語によるコミュニケーションをとる機会を創出する。

